

年度 2008 学期 後期	曜日・校時 木2／木3	必修選択 必修	単位数 1
授業科目/(英語名)	中国語Ⅱ ChineseⅡ		
対象年次 1年次	講義形態 演習	教室	
対象学生(クラス等)	木2:T一 / 木3:K26	科目分類	外国語科目(中国語)
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員:秦 耕司 /Eメールアドレス: /研究室:非常勤講師控室 /TEL:0956－47－6673 /オフィスアワー:教室在室時			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 (500 文字) 授業のねらい:中国語の基礎力(基礎学力と基礎技術力)を習得します。 ・発音、文法、日本語訳、中国語訳、音読、聴く力等、全般にわたって中国語の基礎力を身に付けます。 授業方法:教科書には予習欄がありますので、予習を前提として授業を進めます。 ・発音練習と文法説明の後、学生に日本語訳をしてもらい、補足説明の後、徹底した音読練習をします。 ・聴き取りの小テストを随時行います。 授業到達目標:基本的な文法知識と全般的な基礎技術力の習得を目指します。 ・ピンインを見て正しく発音できるようにする。 ・学習した文法事項を用いて中国語訳ができるようにする。 ・ピンインのない中国文がしっかりした発音で音読できるようにする。 ・学習した中国文の聴き取りができるようにする。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) (1300 文字) 授業内容(概要)文法説明と音読練習を中心とした授業で、日本語訳と練習問題は学生にしてもらいます。漢字と発音が直接結び付くようにピンインのない中国文での音読練習に力を入れ、正確な発音を確実に身に付けるようにします。 授業内容(週毎)2回半の授業で1課を終了します。予習のポイントで文法の説明をし、本文の日本語訳と音読練習、文法用例の日本語訳の後に文法の補足説明、練習問題の順に進めます。1課終る毎に聴き取りテストをします。 第1回 第5課 文法:数詞、量詞(2)、動詞“有”、接続詞“和”、進行表現“在”、主述述語文、反復疑問文。本文 第2回 第5課 文法用例、練習問題 第3回 第5課 練習問題、聴き取り 第6課 文法:介詞“離”、主語(2)、選択疑問文、方位詞、助詞“的”(2) 第4回 第6課 本文。文法用例 第5回 第6課 練習問題、聴き取り 第6回 第7課 文法:助動詞“会、能”、全体否定と部分否定、“有”兼語文、時刻表現、介詞“从、到”。本文 第7回 第7課 文法用例、練習問題 第8回 第7課 練習問題 聴き取り 第8課 文法:動詞＋“点兒”、形容詞＋“的”、“在”と“有”、“几”と“多少” 第9回 第8課 本文。文法用例。 第10回 第8課 練習問題、聴き取り 第11回 第9課 文法:名詞述語文、経験態、疑問詞＋“都”、月、曜日、日付。本文 第12回 第9課 文法用例、練習問題 第13回 第9課 練習問題、聴き取り 第10課 文法:程度疑問文、期間表現と“了”、様態補語、“一～就…” 第14回 第10課 本文、文法用例、練習問題 第15回 定期試験、第10課練習問題			
キーワード			
教科書・教材・参考書	『総合中国語基礎』 秦 耕司 著 『総合中国語基礎 練習問題集』(自習用) 重要:『練習問題集』でしっかり反訳練習をして下さい。		
成績評価の方法・基準等	定期試験(100%) 注:授業では十分時間をかけて音読練習や聴き取りをし、試験ではそれを反映した問題を出題するので、欠席をすると自然に合格することが難しくなります。		
受講要件(履修条件)	予習 1回目予習:「予習のポイント」を参照しながら、本文の日本語訳と発音練習をしておいて下さい。 2回目予習:文法用例の日本語訳と「作業」をしておいて下さい。 毎回授業の初めに出席をとります。出席は1回しかとりません。		
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			